

# 人権なら

2018年12月1日

第96号

NPO なら人権情報センター

● ひと・まち・生き生き

## 地域社会の課題を考える

### 田原本町企業内人権教育推進協が研修会

田原本町企業内人権教育推進協議会は10月12日、町庁舎で第2回役員会を開催。今年の研修会について協議し、11月2日に実施することとした。

役員会では、谷野守弘・会長があいさつ。研修は県立同和問題関係史料センターの視察、と決めた。

これまで研修地として奈良市・般若寺と北山十八間戸や、田原本町の田原本藩陣屋跡などをフィールドワークしてきた。今回、これらを踏まえて、「部落史の見直し」とどうつながるのか、を学ぶこととした。



11月2日の研修会には、会員企業が参加。奥本武裕・所長から、同センターの役割や取り組み、開所25周年を迎えたことの説明を受けた。また、今日の状況として2016年度に制定された「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」のほか、人権概念の拡大についても説明を受けた。

奥本さんは、「同和問題」は多様な人権課題の1つと位置付け、その解決をめざすことが必要、と語った。

### 「部落史の見直し」で教科書記述も変更

このあと、常設展示を視察。古文書などを観賞した。近世大和の村と町、被差別民衆の登場、多様な被差別民と地域社会などの解説を聞きながら見て回った。

奥本さんは「部落史の見直し」に関して、1993年の中学社会科教科書と2016年との記述を対比して身分表記の違いや、農業に従事し、年貢も納付してい

たことなど、教科書の記述も変わった。部落差別は江戸時代に政治権力が作り出したのではない。部落や多様な被差別民を「自分たちとは異なる存在」と見なして、蔑視、賤視、忌避、排除の対象としてきたもの。部落と周辺地域の社会的関係の中で生み出された、と理解し、地域社会の課題として考えるべき。抑圧・排除しない開かれた地域社会に改革し、すべての人が尊重される地域社会にする必要がある、と話した。

\*\*\*\*\*

## 纏向・三輪をフィールドワーク

反差別・人権交流センター「絆」は11月10日、「纏向(まきむく)から三輪(みわ)を歩く」をテーマにフィールドワークした。

コースはホケノ山古墳－箸墓古墳(遠望)－慶運寺・隅田検



校徳碑(写真)－茅原墓古墳－大神(おおみわ)神社－宇高宮。吉田栄治郎さんが案内した。

JR巻向駅から山辺の道を抜け、大神神社まで歩いた。「盲人と当道座の歴史」と、「高宮神主」の話は興味深かった。近世、南北朝期までに「当道座」には、検校・勾当・座頭の官位が作られ、江戸時代には幕府の保護を受けた。高宮神主家は物主神の子孫とされ、最も神聖視された。6町四方の外に出ることが許されず、死ぬまで髪や髭を切らず、別火したとされる。

別火や体に刃物を当てない作法は天皇家にも通じる「俗から聖への転身の際の儀式」。本質的には隔離であり、賤の場合も隔離される。「差別の問題はその辺りから再検討」することが重要だ、と提起を受けた。

終了後、参加者19人で食事をしながら交流した。

## 古市・屯鶴峯地下壕を視察

### 横浜市教委・屠場のメンバーが奈良現地研修

横浜市教委・屠場のメンバー18人が10月19日から3日間、「奈良現地研修」を行った。

初日の午後は奈良市東人権センターで研修。まず、古川友則・NPOなら人権情報センター理事長があいさつ。藤本孝幸・同理事が「古市の地域と2006年の同和不祥事」について話をした。

藤本さんは小さい頃の村の景色を交えて、1955年の支部結成と子ども会活動の開始、66年の市営住宅要求運動の高まり、奈良市長の家族による「塩まき差別事件」、69年「同和対策事業特別措置法」以降の住宅環境改善など、70年からの小集落地区改良事業、78年の支部長不正問題を受けての支部再建、93年の県連「分裂」、2006年の「同和不祥事」など、解放運動の歩みを振り返った。今後の進むべき道としては、「同和第一主義と行政依存からの脱却」「エステ型からエアロビ型へ」の移行が大切、と話した。

### 「古市村と北浦定政」の話を聴き、地域内を歩く

続いて、吉田栄治郎・天理大学講師が「古市村と北浦定政」をテーマに話をした。その後、周辺をフィールドワークした。吉田さんの案内で、油掛け地蔵



(写真)ー岩井川ー北浦定政墓所(古市共同墓地)ー藤堂藩古市奉行所跡を訪ねた。

北浦定政は古市奉行所で「掛屋」として出納を管理。平城京の復元に取り組み、「平城旧址之図」を作成し、「文久修復」にも活躍した。のちに「夙村考」などを著し、大和の所在地などを考証している。吉田さんの「夙村」をめぐる話は興味深かった。

2日目。午前中は三宅町「あざさ苑」で、ひまわりの家のメンバー・スタッフから話を聴いた。12月1、2日の「ピープルファースト奈良大会」に向けた活動や、

「旧優生保護法の裁判」支援などの話を聞いた。渡辺哲久・常務理事は「障害者・障害児相談支援事業と教育と福祉の連携」をテーマに話をした。

### 地下壕は特攻攻撃の司令所として造られた

午後は、「屯鶴峯(どんづるぼう)地下壕トンネル跡」をフィールドワークした=写真。NPO屯鶴峯地下壕を考える会の田中正志さんが案内した。

地下壕は1945年6～8月の短期間に、「本土決戦」に



向け、九州方面からやってくるアメリカの艦船に特攻攻撃を行うための指令所として造られた。だが、「終戦」で使用されることはなかった。「工事は陸軍第19地下施設隊が行った。その中には多くの朝鮮人兵士が含まれていた。朝鮮最後の皇太子・李垠(イ・ウン)が滞在していたとの証言もある」との説明を聞きながら、真っ暗なトンネル内を歩いた。

\*\*\*\*\*

## 確定申告相談の説明会

県中小企業者協会(山下力・会長)は12月10日から13日まで三宅町あざさ苑など4か所で確定申告相談の説明会を開く。各説明会は次の通り。

期 日	開 催 時 間	場 所
12月10日 (月)	午後6時受付・ 6時15分開会	石上コミュニティーセンター
12月11日 (火)	午後6時45分 受付・7時開会	河合町心の交流センター
12月12日 (水)	午後6時受付・ 6時15分開会	西田中町ふれあいセンター
12月13日 (木)	午後6時受付・ 6時15分開会	三宅町あざさ苑

問い合わせは、県中小企業者協会A(TEL:0744-33-3939)まで。

## 対等だった農業水を引く権利

### 河合町人権学習講座で葛城古道を歩く

河合町「人権学習講座」が11月9日にあり、「葛城古道を歩く」のテーマで笛吹神社、もど川、小林、屋敷四郎兵衛屋敷跡をフィールドワークした。案内は吉田栄治郎・天理大学講師。

笛吹(ふえふき)神社=写真。祭神は火雷大神。火雷神は鍛冶や鉄製造の神。葛城山麓に広がった鉄器製造に関わった氏族の氏神とみられる。



現在の笛吹神社付近には、歌舞音曲や殯(もがり)の奉仕を職業にする笛吹氏が居住し、中国・朝鮮に今も存在する「泣く女(なきめ)」「喪主に代わって泣く女性」を務めた。日本ではほぼ消滅したが、古代から戦前までは全国的にあった。

### 御所・小林を含めた11村で番水制度

葛城山麓から流れるもど川から水を引く権利を持つ村は、現在の葛城市(元・新庄町)山口・梅室・脇田など10村と、御所市小林を合わせた11村。この分水システムは天正年間(1573~92)に、この地方を襲った干ばつの際、上郷・下郷の水利組織を合わせて11村による番水制度が始まったと伝えられる。



「部落史の見直し」が始まる以前は、「部落差別によって農業水を引く権利を与えられなかった」という俗説が広まっていた。だが、小林地域は部落外の10ヵ村と対等の権利を持っていたことが確かめられる。小林は住井すゑの「橋のない川」の小森の舞台になった村。

その後、今井正監督の映画『橋のない川』(I部)をめぐり、部落解放同盟内の日本共産党系との対立を

背景に差別映画上映阻止闘争が全国で闘われた。

家舗四郎兵衛屋敷跡は今、小林地区の資料館。

\*\*\*\*\*

## 在日外国人の現状は

### 保証人バンクの山本直子さんが講演

三宅町「第4回人権学習講座」が10月11日にあった。「外国人労働者 奈良保証人バンク」の山本直子・事務局長が「在日外国人の置かれている現状」をテーマに講演した=写真。



山本さんは、1992年に「外国人保証人バンク」を結成。西大和にあるカトリック教会での活動は、当時、ラテンアメリカ(ブラジル・ペルー)の方が多く、日本での仕事や就学など生活全般にわたる相談だった。

日本の出入国管理および難民認定法や外個人登録法は「治安対策を柱」にしている。逃げられないようにパスポートを取り上げられたケースや、長期にわたり、低賃金で働かされていた研修生・実習生のケース、日本人男性と結婚し、DVで苦しんでいる外国人の相談が増えている、と話した。

### 県内の在住者は11,000人以上

また、王寺町にある「西和自主夜間中学」で、外国にルーツを持つ子どもたちの学力保障の取り組みなども紹介。大切にしてきたことは、「どの国の人であろうが、働く人の権利や安全は同じく大切」だと述べた。

奈良県内には、2015年末の法務省在留外国人統計によると、韓国・朝鮮(3,825人)、中国・台湾(3,373人)、フィリピン(655人)、ベトナム(590人)、ブラジル(389人)、その他(2,253人)の総数11,085人の外国人がいる、とした。

山本さんの話を聞いていて、安倍政権が今臨時国会で成立をめざしている「入管法の改正」は、外国人労働者の「保護や安全、人権」といった問題を、すべて置き去りにしているように感じた。



# 地域の結びつきが形成

## 県民歴史講座で「上街道」を歩く

「県民歴史講座」が11月13日にあった。「上街道を歩く」をテーマに天理の丹波市から長柄までを歩いた。案内は同和問題関係史料センターの竹田祥子さん。

この地域には奈良盆地を東から「上ツ道」「中ツ道」「下ツ道」と呼ばれる幹線道路が南北に貫通する。

上ツ道は江戸時代には上街道と呼ばれた。樺本・丹波市・柳本などの町場が発達し、布留川の水利と石上神宮への信仰によって布留郷と呼ばれる地域の結びつきができた。現在の天理市北東部から中部にかけ、約50か村におよぶ。



市座神社(写真/丹波市)の祭神は事代主命(ことしろぬしのみこと)。境内には恵比須社と妙見社がある。エビス神は漁業神だが、市の守護神として信仰された。浄国寺(勾田)は浄土宗の寺。境内の北側を内山永久寺への参詣道が、東側を上街道がそれぞれ通る。

上街道が大きく屈曲する地に福知堂村の出屋敷が

### 編集後記 ★★★★★★★★★★★★★★

日産のゴーン会長が逮捕された。金融商品取引法違反の容疑だという。彼は「コストカッター」と呼ばれ、カリスマ経営者ともてはやされてきた。だが、多くの労働者を犠牲にして日産を立て直したのだ。人権を蹂躪してきたのだ。富裕層には資産を海外に隠したり、税逃れに奔走する人が多い。庶民は所得が完璧に捕捉され、逃れられない。資産家がますます富める社会構造は変えないといけない。大企業は内部留保が446兆円もあるとか。分配すべきだ。逮捕はゴーン会長の追放劇なのか。富裕層の脱税を見逃さないポーズを示して、消費増税の批判をかわすのが狙いなのか。

形成された。藤の棚(写真)があり、松尾芭蕉が貞享5年(1688)に訪れ、藤の花を見て読んだ句碑がある。

「明治の三老農」(農業指導者)の一人とされる「中村直三 徳碑」も近くにある。

永原村の百姓だったが、曾祖父伝次平の代に逼塞。永原村の非人番となり、祖父・父の代に大和国の非



人番組織の小頭を務め、直三も重役「六役」を務めた。石碑は大正4年(1915)従五位が追贈され、同6年に建立。「永原村五人組絵図」(寛政5年/1793)からは非人番と地域社会との関係が窺い知れる。

朝日寺跡(佐保庄町)は、朝日山円通寺が明治8年(1875)に廃寺となった跡。朝日の集落は上街道沿いに形成された佐保庄村の出垣内。井原西鶴が『日本永代橋』の「大豆一粒の光り堂」で描いた篤農家「川はたの九助」は、この地の百姓との設定だという。

\*\*\*\*\*

## 盛大に三宅町「生き生き交流祭」

第27回「生き生き交流祭」が11月11日、三宅町文化ホールであり、大勢の人で賑わった＝写真。お笑い理学療法士、日向亭葵さんの「生涯現役を目指す！」講座、幼児・園児と高齢者の和太鼓やわらべ歌、学童保育クラブの手話コーラス・南中ソーラン、ひまわり和太鼓チームの演奏、地域劇団かいほう塾の上演などがあり、出店も出た。30団体が実行委員会を結成。三宅町議会、教育委員会、人推協が後援した。



### ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター

〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail:info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/